

ひろしま県

高次脳機能センターだより

第7号

平成29年8月21日 発行



7月に当センターを退院し、障害者支援施設あけぼのに入所された園木勝一様の作品です。

CONTENTS

特集

- コーディネーター紹介……………②
- グループリハの紹介……………③

利用者のページ

- 栗原祐貴様……………④

コラム等

- コラム等……………⑤

関係機関ニュース

- お知らせ……………⑥
- いでした内科・神経内科クリニック……………⑦

案内

- 診療案内・スタッフ紹介等……………⑧

センター長就任のごあいさつ

高次脳機能センター長 近藤 啓太

この度、平成28年10月1日付で高次脳機能センター長を拝命致しました近藤啓太と申します。センター長を拝命し、改めてその責任の重さに身が引き締まる思いです。

私がここ広島県高次脳機能センターへ配属されたのが今から約10年前の平成19年4月でした。広島県による高次脳機能障害の診療が出来る若手医師の育成事業を受けての広島大学病院脳神経内科からの派遣でした。当初は半年の研修期間が予定だったので、高次脳機能障害の診療の奥深さに惹かれ、気がついたら2年経っていました。大学院進学のため一旦離れましたが、平成23年4月再び戻って来て、現在に至ります。

私の知っている10年間の間にも、高次脳機能障害の認知度は向上し、支援体制も以前より整い、社会の受け皿も間違いなく増えてきていると感じます。これからも高次脳機能障害者やその家族が「幸せに暮らせる社会」を目指した取り組みは重要だと考えます。しかし、それ以上に、高次脳機能障害のため日常生活や社会生活で困っているが、診断を受けずに、十分な支援を受けられていない人たちがまだまだ埋もれているのではないかとこの視点も忘れてはならないと感じています。このような支援の輪から漏れる患者さんを少しでも減らすためには、普及啓発活動の方法にも工夫が必要と考えています。現在の講演会などによる普及啓発活動では、すでに高次脳機能障害を知っている人、興味がある人にしか伝わりません。目の前にいる人が高次脳機能障害者であると気づき、支援の輪に誘導できる人を増やすための普及啓発活動を行っていくことを今後の目標の1つとしていきたいと考えています。

高次脳機能センターには相談支援コーディネーターが3名配置されており、高次脳機能障害者に対する相談支援、関係機関との連絡、調整を行います。

● 相談支援

当センターでは、高次脳機能障害に関する様々な相談を受け付けています。その相談を最初に受け付けるのがコーディネーターです。

新規の相談は、ご本人、ご家族、病院、相談機関などからが多く、入院や通院によるリハビリの相談など様々な相談に対応しています。コーディネーターは相談内容を聞き取り、主訴を確認します。当センターで入院や通院による支援を受けられる際には、医師や看護師、リハビリスタッフと連携し情報共有に努めています。

ご本人、ご家族の思いを十分にお聞きし、いつでも安心して相談していただけるよう心がけています。



● 生活自立支援

今後の生活に向けた支援の一つとして、各種制度や福祉サービスの利用状況を整理し、必要に応じて

情報提供や制度活用 of 支援をします。在宅生活に向けて、介護保険や障害福祉の関係機関との連絡調整を行います。高次脳機能障害の方は、退院後の家庭生活の中で新たなニーズが出てくることも多く、関係機関との連携を継続することが大切です。

社会生活力の向上などの目的で併設の障害者支援施設あけぼのをご利用の場合には、あけぼのでの訓練と外来でのリハビリがより効果的なものとなるようあけぼのと当センターのパイプ役を担っています。

● 就労支援

当センターの対象者には、休職中で復職を目指す方、新規就労を目指す方が多くおられます。リハビリの段階や職場の状況などにより支援の方法は様々ですが、コーディネーターは主に職場や障害者職業センター、就業・生活支援センター、就労移行支援事業所などの関係機関との連絡調整を行います。

復職、就職された後も、必要に応じて適切な支援が実施できるよう職場や関係機関との連絡調整を行っています。

● 復学・進学支援

学校教育は教育年齢や期間が限定される場合があるので、期間も考慮しながら学校側に本人の障害の状態を理解してもらえよう働きかけます。学習面や他の生徒との関係に配慮がなされるよう学校や関係機関と連携しています。

● 家族支援、普及・啓発活動

当センターは「脳障害者とご家族が幸せに暮らせる社会を目指す」という理念を掲げています。

高次脳機能障害者の症状や環境は一人一人異なります。ご本人やご家族が抱えている問題がすぐに解決しないことも多いです。それぞれの思いに寄り添い、より良い生活のためにできることを一緒に見つけていけたらと思います、日々関わらせていただいています。

高次脳機能障害に対する支援は一つの機関、一人の支援者で担えるものではありません。多方面との連携が必要であり、地域社会に高次脳機能障害の理解者を増やしていくことも私たちコーディネーターの大切な役割の一つです。それぞれの地域での支援者を増やしていけるよう、関係者の皆様にご協力いただきながら普及・啓発活動にも力を入れていきたいと思っています。



特集 2

グルーブプリハ の紹介

当センターでは高次脳機能障害の方向けに様々なグルーブプリハ訓練を行っています。

障害の程度・特徴・進路目標などによって、必要と思われるプログラムは異なるため、リハビリ担当職種（心理士・作業療法士・言語聴覚士）別に専門性を活かしたアプローチを行っています。

高次脳機能障害は「見えにくい障害」と言われますが、患者本人が自分の状態を客観視することも難しくなることが特徴です。

グルーブプリハでは訓練士との一対一のリハビリでは意識しにくい、「他者との違い」を感じることができるため、自己の振る舞いや発言などについて、より客観的に考えることができるようになる効果があります。

同じような不安や悩みを抱えているメンバー間でコミュニケーションを行うことで、気分の安定や意欲向上をもたらす効果もあります。

グルーブプリハがより効果的なものになるように、一部見直しも検討しています。



様々なニーズに応じた 高次脳グルーブ訓練

記憶見当識グルーブ

注意力や記憶力の著明な低下により、状況判断が難しく、生活行動や予定管理に援助・見守りが必要な方のグルーブです。楽しめるグルーブゲームや行事を行います。



期 間	1クール3か月 毎週1回
実 施	金曜日 午前
スタッフ	作業療法士

その他グルーブ

●OB会（月1回）

発症から長期化し安定状態であるメンバー同士が行事やイベントなど企画して楽しむグルーブです。



●ケセラセラ当事者グルーブ（月1回）

家族会と並行して、当事者間のコミュニケーションを図るクルーブです。

スタッフ	作業療法士
------	-------

模擬就労グルーブ

新規就労や復職を目指す方のための就労前訓練です。グルーブでの業務処理・コミュニケーション・リーダー経験などを通して、職業準備性を高めていきます。

期 間	通年毎週1回
実 施	月曜日 午前～午後
スタッフ	作業療法士



グルーブルーム2

失語症グルーブ

失語症の方がコミュニケーション課題（テーマトーク・グルーブゲーム等）を通して、言語機能の改善・活性化をはかるグルーブです。

期 間	通年
実 施	月曜日 午前、木・金曜日 午後
スタッフ	言語聴覚士

※木曜日はあけぼの利用者

社会適応グルーブ

メンバーお互いの悩みを共有したり、集団での役割を意識したり、協力して課題に取り組んだりする活動を通して、社会適応性を高めていくグルーブです。

期 間	1クール3か月 毎週1回
実 施	火・水曜日 午前
スタッフ	作業療法士

SSTグルーブ

コミュニケーションスキルの改善を目的としたグルーブです。状況に応じたコミュニケーション方法（アサーティブ）についての学習を行います。

期 間	1クール3か月 毎週1回
実 施	月・火・水曜日 午後
スタッフ	言語聴覚士

※月曜日はあけぼの利用者



グルーブルーム1

あけぼの入所者グルーブ

障害者支援施設あけぼの「生活訓練」利用者向けのグルーブです。心理グルーブとOTグルーブにメンバーを分けて、学習や行事計画・問題解決訓練などの課題を行っています。

期 間	1クール3か月 毎週1回
実 施	木曜日 午後
スタッフ	心理士・作業療法士



栗原 祐貴

「自分らしくいられる場所」

「自分なんて」そう思っていた日々でした。優れた才能もなければ、何かに興味を示す事もない。ただ、当たり前でつまらない日々を送るだけ。そんな僕の日々は中1の冬のあの日から大きく変わりました。医者の診断によれば「原因不明の脳出血」だったそうです。発症してから約2か月半、僕は植物状態で意識がありませんでした。しかし、当時通っていた中学校の先生が、友達の声をテープに吹き込んでくださり、その声で僕は意識を取り戻す事ができましたが、僕はまだ座る事もできず、とてもリハビリができる状態ではありませんでした。

そして、本格的にリハビリに取り組むために、僕は岡山にあるリハビリテーションセンターに転院する事になります。そこで、4カ月リハビリをした後に今度は、広島県立障害者リハビリテーションセンターにてリハビリをする事になります。そこには僕と同じ高次脳機能障害で苦しんでいる患者さん達が毎日、リハビリに励んでいました。最初は、高次脳機能障害がどうい

う病気でどんな症状があるのかさえ知らなかった。で、本当にゼロからのスタートでした。その当時の私は途中何度も、リハビリを嫌になつて逃げ出していました。

全ての行動が異常で不自然だったあの頃、そんな僕にある思いが芽生えてきます。それは、「もう一度、元いた中学校に戻りたい」という思いです。その思いが僕の唯一の支えでした。でも、現実ではそれはありえないのです。その当時の校長先生の判断とその当時、僕の担当だったソーシャルワーカーさんの適切な支援のおかげで僕は元いた中学校に戻る事ができました。しかし、ここからが本当の苦悩の日々だったのです。授業が始まって五分も集中する事ができず、いきなり教室を飛び出す、エレベーターの非常ボタンを何度も押すなど異常行動の連続でした。今になって思うとよく、当時の先生達も病気になる前の僕とは違う自分の行動に、耐えてくれたなと感謝の気持ちでいっぱいです。

その後、僕は中学3年に進級し、この先の進路について考える事になりました。そんな時に、父が「祐貴、大学にいつてみる？」と言ってきました。最初は正直、半信半疑で「僕なんかが大学に行けるわけない」と思っていました。そして、悩みに悩んだ末に僕は大学に行く事を決意しました。そして高校受験のために勉強をしようとしたのですが、なんと、中学校一年生で習う正の数、負の数がわかりませんでした。これはいかに父の猛特訓のおかげで何とか最低

限の勉強はできるようになりました。しかし、まだまだ高校に入れるようなレベルではなく、高校のその当時の入試担当の先生達も夜中の三時ぐらいまで悩んで僕を迎え入れてくれる事を決心されたそうです。

おかげでなんとか、広島県立福山特別支援学校に入学する事ができました。そこで三年間勉強をしていく内に、次第にできる事も増え、大学の入試ができるまでになりました。しかし、現実はずつと甘くなく落ちてしまいました。でも、正直な所うれしくもありました。高校入試の直前に正の数、負の数がわからなかった人間がまさか、大学入試が受けられるまでになるとは、きつとあの頃の人達は思ってもみなかったでしょう。

そして、高校を卒業後僕は、あけぼのに入所しました。そこで大切な仲間も出来ました。その仲間に励まされ、支えられて、あけぼのを退所した今でも、とても大事な友達です。

今は広島文化学園大学の二年生として勉強に励んでいます。大学に入って、信頼できる友達もできました。僕がこの病気になって失ったものはたくさんあります。でも、その代わりに人の痛み、学ぶ事の大切さ、人と人との出会いの中で得たものはたくさんあります。この病気になったからといって終わりではありません。自分らしくいられる場所というのは、どんな形であろが自分で努力して勝ち取った場所と言う事です。努力をした先にしかない自分だけの居場所を勝ち取るその日まで諦めません。

コラム

高次脳機能障害とは

関根 真悠

高次脳機能障害という言葉を以前は聞きなれなかった方も多いと思います。その意味は運動や感覚の障害を除いた大脳皮質の機能の障害、具体的には言語、行為、認知、記憶、注意、判断などの働きが障害されている状態のことを指します。

つまり、認知症と一般的に呼ばれているアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症で出る症状も高次脳機能障害の一種であり、一方脳卒中後の失語や脳外傷後の記憶障害などもその一種です。高次脳機能障害には多くの病気から引き起こされる症状が含まれており、その治療やリハビリテーションの方法も様々です。

当リハビリテーションセンターでは高次脳機能障害のなかでも通常非進行性の疾患、主に脳卒中や脳外傷などによる後遺症として高次脳機能障害をお持ちの患者さんに対し、生活自立や社会復帰が可能となることを目指して高次脳機能障害に特化した認知リハビリテーションを行っています。

一見ただけでは障害のわかりにくい高次脳機能障害ですが、これから社会的認知度も高まり、患者さんと御家族が安心して過ごせるバリアフリーな社会の実現する時代を診療しながら願っています。

スポーツ交流センター

おりづる

スポーツ交流センターは、平成8年8月に身体障害者福祉センターA型として開館しました。

「スポーツ、レクリエーション、文化活動などを通じて障がいのある人の生きがいづくりを応援します」を理念に掲げ、日々、障がいのある方の社会参加の促進や障がい者スポーツの普及・啓発を目指しています。



- 1 **スポーツ交流センターの基本方針は次の通りです。**
スポーツ、レクリエーション、文化活動を通じて、障がいの有る方の社会参加の促進に努めます。
 - 2 お客様の人格・人権を尊重し、お客様の立場に立ったサービスを提供します。
 - 3 設備の安全点検と丁寧な利用説明を行い、お客様の「安心・満足」に努めます。
 - 4 知識と技術の向上を常に心がけ、サービスの質の向上に努めます。
 - 5 利用促進と業務に効率化に努め、健全な施設運営を目指します。
- スポーツ交流センターの施設内容は次の通りです。
- 1 **アリーナ**
2面に分けて使用可能。床暖房設備・時期ループを設置しています。施設用品の貸出も行っています。

2階にアリーナを一周するランニングエリアがあり、視覚障がいの方でも歩いていただける様に、ランニングガイドを設置しています。

2 ブール

25メートル6コース、水深1・25～1・45メートルで、内2コースは台を入れて水深0・5～1・05メートルと浅くなっています。

水温は32℃前後を保ち、身体を温める採暖室があります。異性介助でもご利用いただけるよう、家族更衣室を設置しています。

3 トレーニング室

トレッドミル・エアロバイクなどのトレーニングマシンを設置しています。

4 卓球室

反射音を少なくする吸音材を使用しています。2室に分けて使用可能です。サウンドテーブルテニス卓球台と一般の卓球台を使用できます。

5 多目的グラウンド

グラウンドゴルフ・フライングディスク・レクリエーションなどを多目的に使用できます。

6 会議室

2室に分けて使用可能です。磁気ループ・カラオケ・CD/DVDプレイヤーなど設置しています。

7 調理実習室

調理台の高さが調整できます。

8 バリアフリーモデルルーム

使いやすい建具、調理器具、食器類、日常生活用具などを展示し、実際に体験することが出来ます。貸出も行っています。

スポーツ交流センターは障がいのある方はもちろん、一般の方もご利用いただき活動を通して交流を深めていただける施設です。みなさま、どうぞお気軽にお越しください。

関係機関ニュース

講演会 報告

誰も教えてくれなかった
高次脳機能障害者の
ための手帳と年金の話

日時：平成29年6月11日(日)

午後1時～4時30分

場所：広島市中区地域福祉センター

主催：NPO法人高次脳機能障害サポート
ネットひろしま

第1部は社会保険労務士の畠田谷栄子先生から「障害年金 どんな人がもらえるの?」として、年金制度の仕組みや、精神の障害に係る等級判定の仕組みについてお話があり、次に、高次脳機能センター長近藤啓太先生から「高次脳機能障害について 診断書を書く立場から」として高次脳機能センターでの診断書作成までの流れや、診断書を書く際は家族からの詳細な情報(困りごと)を教えてください。第2部は、「知っておきたいエピソード」手帳や年金の申請に役立ちます」として、医師への症状の伝え方、家族からのエピソードの引き出し方をサポートネットひろしまのスタッフとともに、診察場面でのやり取りの実演にて行われました。100名を超える参加者でした。

家族会 情報

脳外傷友の会 第17回全国
大会は岐阜県で開催

平成29年10月20・21日の両日、岐阜県にて開催予定です。皆様、ぜひご参加ください。

勉強会 情報

家族セミナーの
ご案内

高次脳機能センターでは、毎月2回、高次脳機能障害者やその家族、その他関心をお持ちの方を対象に、次のとおり学習会を開催しています。

場所：広島県立障害者リハビリテーションセンター(会場は変更もあるので、2階受付でご確認ください)

日時：第一金曜・第三火曜の14時15分～14時55分

内容：月ごとに、①「脳障害とその後遺症について」②「リハビリテーションと本人への関わり方について」③「福祉制度について」という内容を扱っています。①は10月・1月に、②は8月・11月・2月に、③は9月・12月・3月に実施予定です。

*参加を希望される方は、参加申込書にご記入のうえ、高次脳機能センターにお申し込みください。当日参加も可能です。

家族会 情報

家族会のご案内

当センターでは、患者様のご家族主催の家族会も開催されています。他のご家族とお話しをしてみたいかがでしょうか?仲間と語りあつたら、少し楽な気持ちになれるかもしれません。いろいろなアドバイスもいただけますよ。

家族会「シェイキングハンス」

第一火曜 13時30分

家族会「ケセラセラ」

第一金曜 11時

研修情報

平成29年度高次脳機能
障害研修会のご案内

今年度は2回開催いたします。

①平成29年11月23日(木) 三原リージョンプラザ

②平成30年1月28日(日) 広島市

この研修会は、日本損害保険協会の助成を受けて高次脳機能障害に対する正しい理解と認識を深めるために実施しています。今回は、高次脳機能障害の診断がついてから社会に戻るまでを取り上げ、病院の立場からまた家族会の立場から講演を行います。

病院にたどり着いていない人も沢山いらっしゃいます。この講演を聞いていただき高次脳機能障害を一人でも多くの方に理解していただければと思います。沢山の方の参加をお待ちしております。

お知らせ

図書の紹介

おすすめの1冊を紹介します。

「事例カンファレンスで学ぶ

高次脳機能障害リハビリテーション」

よりよい支援のためのヒント

監修/清水一 編著/川原薫

高次脳機能障害のリハビリプログラムでは、1人の対象者に対して多職間で多面的に関わることが有効とされています。

高次脳機能障害をどう理解するか?どう支援していくか?多くの専門家が悩んでいます。

この本は、多職種の有志による、高次脳機能障害のケース検討会の様子が書かれています。どのように方向性を見つけて行けばよいか、模索している当事者本人、家族、支援者の方々に手に取っていただき、考え方の道筋やなんらかのヒントを見つけていただければと思います。どうしたらうまくいって、どうしたらうまくいかなかったか、多職種による症例検討会を再現しています。

施設紹介

いでした内科・神経内科クリニック 高次脳機能デイケア

【施設紹介】

当院は、広島市安佐北区口田にあるクリニックで、医療部門（外来診療、訪問診療、外来リハビリ、入院、重度認知症患者デイケア、精神科デイケア、高次脳機能デイケアなど）と、福祉・介護部門（通所リハビリテーション、通所介護、ショートステイ、サービス付き高齢者住宅、居宅介護支援事業所、訪問介護など）を提供しています。高次脳機能デイケアは、平成28年7月1日にオープンして、約一年が経ちました。現在は、ご利用者も増えて、20〜90代までの30人以上の人に利用していただけており、29年7月にはデイケアの拡充も予定しています。



【高次脳機能デイケアの利用について】

- ① 専門医師の診察を受けていただき、「高次脳機能障害の症状がある」と診断された人が利用可能になります。ただし、身体的にはトイレ・食事等が自立している人に限ります（車椅子でも可）。
- ② 医療保険が適用できます。そのため、自立支援医療制度などを利用して、広島市の人は自己負担金なし、広島市以外の人は1割負担（昼食を含む）で利用することが出来ます。

時間	項目
9:00	デイケア開始
10:00	ラジオ体操・朝の会
10:30	休憩
10:40	集団訓練プログラム
11:40	休憩
11:45	食前の体操
11:55	食事準備
12:10	昼食・休憩
13:10	集団訓練プログラム
14:10	休憩
14:20	清掃・帰りの会の準備
14:40	帰りの会
15:00	デイケア終了

【高次脳機能デイケアの一日の流れ】

各専門職による集団訓練プログラムを中心とし、メモリーノートを活用した朝の会・帰りの会、言語聴覚士による食前の体操を行っています。食事の準備（配膳・清掃、帰りの会の準備（飲み物・お菓子の準備など）は、生活訓練としてご利用者全員で行っています。

【高次脳機能デイケアのスタッフ】

当デイケアは、高次脳機能障害専門の医師や臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、精神保健福祉士などのスタッフで運営しています。

- ③ 他の医療機関や介護保険のサービスを利用中の人も、当院のデイケアの併用が可能です。
- ④ ご自宅からデイケアまで無料で送迎します。なお、遠方の人は、近くまで来ていただくこともあります。（主な送迎範囲：安佐南区、安佐北区、東区、中区）
- ⑤ ご本人、ご家族、支援者、どなたでも見学をお受けしています。利用を検討されるに当たり、実際のリハビリを体験していただく一日無料体験も行っています。（デイケア運営時間：月〜金曜日、第2・4土曜日の9時00分〜16時00分）

認知機能の向上を目指した集団訓練プログラムを、ご利用者が飽きることなく取り組めるように、これまでに200種類以上実施しており、毎日新しいものを提供できるよう努めています。また、訓練の一環として外出レクリエーションも定期的にを行っています。司会進行や書記、タイムキーパー等の役割を決めて、ご利用者自身で企画するところから始めてもらい、この一年で、バーベキューや忘年会、花見や平和記念資料館見学などを実施しました。

また、一人一人のニーズに合わせて個別課題も行っています。

私たちは、県内唯一の高次脳機能障害専門デイケアとして、リハビリのニーズはもちろんのこと、地域で生活される高次脳機能障害の人の居場所となるようにしたいと考えています。

ご不明な点等あれば、お気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

〒739-1734

広島市安佐北区口田3-32-8

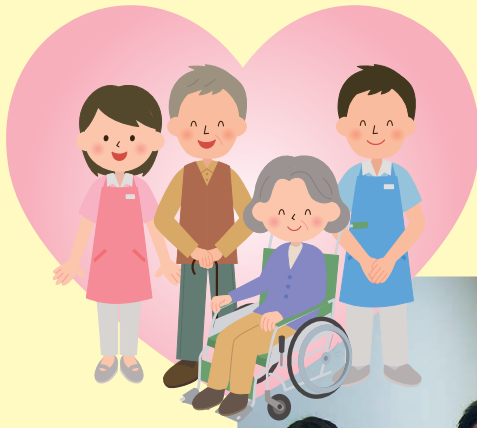
いでした内科・神経内科クリニック

高次脳機能デイケア

TEL 082-845-6541

FAX 082-845-6541





高次脳機能センター スタッフ一同
新しいメンバーも加え
気持ちも新たに頑張ります！

編集後記

新しいメンバーで新年度をスタートして早4ヶ月。あっという間に暑い夏がやってきました。たくさんの方との出会いの中で、日々多くのことを学ばせていただいています。これから皆様との出会いを大切に、がんばっていききたいと思っています。よろしくお願いします。

おこたわり

原稿・写真については、ご本人の承諾を得て掲載しています。

診療案内

□ 診察の流れ

予約制になっております。予め電話でご予約の上ご来院ください。

① 電話予約

082-425-1455(代表) 高次脳機能科受付 内線237

受付時間 月～金 9:00～17:00

専門のコーディネーターが対応します。

相談のみでもお受けします。

② 高次脳機能科・神経内科 外来診療

脳神経に関する専門医が診察します。

(H29.4.1～)

	月	火	水	木	金
9:00 ～ 12:00	近 藤 関 根	近 藤 関 根	近 藤 関 根	近 藤 関 根	近 藤 細 見
13:00 ～ 13:30	近 藤 関 根	近 藤 関 根	近 藤	近 藤 関 根	近 藤

近藤 Dr.
第1・3 PM あけぼの診察

診察をスムーズに行うため、現在診療を受けている医療機関の主治医と相談のうえ、可能であれば紹介状・頭部CTやMRI等の画像をお持ちください。

③ 入院・リハビリテーション・社会復帰支援・相談、家族支援

高次脳機能障害の病態に応じて医療と福祉の連続したサービスを提供します。